

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様には清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、国、県をはじめ多くの皆様のご協力を頂き、復興に向けた施策を着実に実施できた一年となりました。

しかしながら、現在も本市からの避難者が約4千900名、本市への避難者が約8千100名いらっしゃる中で、住宅・道路の除染や子育て支援施策の一層の推進、さらには団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題への対応など、まだ多くの課題が残っております。



震災・原発事故からまもなく4年を迎えます。世界中から頂いたご支援に感謝しながら、すべての市民が知恵と英知を結集し、勇気を持って行動するならば、子どもたちが希望を抱き、高齢者が安心して暮らせる郡山を必ず創ることができるものと確信しております。

本市では昨年、WHO（世界保健機関）地域安全推進協働センターが提唱するセーフコミュニティ活動の取組宣言をいたしました。市民一人ひとり、そして町内会などの各種団体が連携し、客観的データを活用することにより、けがや事故を減少させ、安全の質の向上を図るものです。

5年後の2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックにおいて、多くの方々が日本を訪れる際に、本市が世界に貢献する上でも有効な取り組みであると考えております。

単に災害の前の状態に戻す復興ではなく、都市としての自己治癒力を高め、全国に発信できる郡山、世界に貢献できる国際都市郡山の実現を目指してまいりましょう。

市民の皆様にとりまして、本年が幸多き一年となりますよう心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

郡山市長

品川 萬里